

那古地区説明会 協議録

日 時	令和4年7月6日（水） 19:00～20:45
場 所	那古小学校 体育館
出席者	出山教育長・岡田教育部長・今井教育総務課長・庄司教育推進室長・藤本同副課長・小柴副主査（司会）
参加者	17人（保護者80% 地域住民20%）
記 者	なし（－）

【 概 要 】

- 教育長説明 5分
- 教育部長 3分
- 課長説明 45分
- 前日までの質疑応答の紹介 15分
- 質疑応答 15分（3人）

（学校再編全体の方向性に対する意見）

- 各地域では、最終的にいつ時点の学校のあり方を目指した検討をすべきか。

（地区での組織立て方法に関する意見）

- 特になし

【 個別議事録 】

（参加者A）

- ・ 各地域で意見を纏める期間は、どのくらいなのか？
- ・ また、最終的にいつ時点を目指した話し合いをすべきなのか？

（藤本副課長）

- ・ この後、説明しますが、2年後の令和6年度中に各地域での意見を纏めて頂きたい、と考えています。
- ・ 令和20年頃までの期間を見据えて考えて頂きたい。その理由としては、令和2年度に生まれた子供達が小学校1年生となるのは令和9年度です。但し、その令和9年度を目指した考えでは、その後も少子化の流れは続いていくことが予測されているため、また10年後などに学校再編の議論をしなければならない。それは、子供達にとって再び環境が変わってしまい、良いことだとは考えていないため、もう少し先、令和20年頃を見据えた考えを持つべきだと思っています。

（参加者A）

- ・ 今後、子供は増加する見込みは無いため、減少するのを前提に考えるべきではないか

（藤本副課長）

- ・ ご指摘のとおり、減少するのを前提に考えるべきであって、今回の基本指針に関してもそのような将来予測値も掲載しているところです。

- ・ また、現在も市外から移住者を増やす取組を実施していますが、それらにより〇〇人増えるだろうといった仮定の数値では無く、現実的な子供の人数を根拠に検討すべき事項と捉えています。

(参加者 A)

- ・ 第一中学校から館山中学校で、ある部活動をしたくて入学したいとの希望を出しても、それが叶わない生徒がいたが、その理由は？
- ・ 館山中学校区への転校生が来たら受け入れないのか？
- ・ 過去において、第一中学校から館山二中へ部活動を理由とした変更が認められていたが、今は認められていない、その理由は？

(藤本副課長)

- ・ 館山中の現状として、施設のキャパシティ的に受入れする余裕が無いからです。
- ・ 現在、学年6クラス規模で学校運営を行っていますが、数人増えるだけで新たに1クラス増加させなければならず、転校生などの余剰を考慮してこれ以上学区外からの受入を行えない状況です。
- ・ よって、館山中学校に部活動を理由とした入学希望については、定められた中学校に入部を希望する部活動がある生徒については、受入を制限しており、定められた中学校に入部を希望する部活動がない生徒の受入を優先している状況です。
- ・ 前の第二中学校では、施設規模に余裕があったため、定められた中学校に入部を希望する部活動がある場合に関しても指定校の変更を認めていました。

(参加者 A)

- ・ 現在の第一中学校野球部の顧問2名のうち1名は、新卒2年目の女性の妊婦さんであり、そのような状況であるため、もっとフレキシブルに学校を選べるようにして欲しい。

(藤本副課長)

- ・ ご事情は分かりますが、館山中学校の教室施設数から現在は生徒数の限界となっており、仮にその1名を認めてしまうと、例えば房南中学校にも野球部がありますが、そちらからも館山中学校に通いたいとの希望を認める必要も出てきてしまいます。認めてあげたい気持ちはありますが、施設的に難しい現状をご理解いただきたい。

(教育長)

- ・ 学校の規模が少なくなれば教員の人数も限られてしまいます。
- ・ また、教員の年代層も40代～50代が少なく、若手職員の比率が高くなっており、新採1年目でも講師の方々にも部活動の顧問をお願いしている状況です。
- ・ 私どもも、館山中学校の規模や転入生の可能性含めて、昨年度南房総市にも館山中学校への区域外からの就学をご遠慮いただきたい旨、協議を行っている状況もありますので、それらの事情もご理解いただきたい。

(参加者 A)

- ・ 市内には、房南中と第一中しか残っていない。中学校の再編に関して、市はどのように考えているのか？房南中と第一中を統合するのは現実的では無いのではないかと。

(藤本副課長)

- ・ 確かに房南中と第一中を統合するのは、地理的要件からは現実的ではないと思います。これから各小学校区において、中学校を含めた議論を行い各地域の意見を伺っていきたいと考えています。

(参加者 A)

- ・ もっと広く、安房地域全域で考えるべき話ではないのか？

(教育長)

- ・ 現状の中では、今の枠組みや条件の中で考えなければならないことと認識しています。

(藤本副課長)

- ・ 学校の設置者は、地方公共団体であり市である大前提があり、市町村合併を行うことは現実的に直ぐ動ける話ではないのをご理解いただきたい。

(参加者 A)

- ・ そうしている間に、今いる子供、来年 1 年生になる子、2 年生になる子、それらの子供はどうなるのか。

(藤本副課長)

- ・ 仮に統合するとなっても直ぐ出来るものではありません。過去の神戸小学校・富崎小学校の時も、統合準備委員会を立ち上げ細部の検討をしたように、通学路の安全対策や子供達への心のケアなど丁寧に行っていく必要もあります。特に子供達への心のケアでは、県教育委員会へ統合前から統合後の一定期間、教員を特別に増員する要望活動を行うなど、準備にも時間を要することをご理解いただきたい。

(参加者 A)

- ・ だからこそ、個々のフレキシブルさを直ぐやって頂きたい。

(藤本副課長)

- ・ 先ほどの部活動のように、施設規模などから叶わないこともあります。出来る事に関しては、今までも実施してきましたし、これからも柔軟に対応していきたいと考えています。

(参加者 B)

- ・ 検討する組織の立上げを地域としてどのように踏み出せば良いのか？ 最初の動き出しをどう考えれば良いのかについて教えて下さい。

(藤本副課長)

- ・ 現在の P T A の方々にどういう組織を立ち上げるべきか最初に相談します。その後、幼稚園・保育園世代の方々にどのように組織に参画してもらうのかについて、父母の会の方々に相談して決定したいと考えています。

(参加者 C)

- ・ 小中一貫校に関してのメリット・デメリットは、どう考えていますか。

(庄司室長)

- ・ 房南学園では、同一敷地内に設置しているため、小中学校の教員が子供達を常に見ることが出来る。具体的には、中学校に入った時、何か問題等が発生した場合、小学校の様子を踏まえた機動的な対応が可能となること、また子供たちにとっても中一ギャップなどの不安感もないところがあります。
- ・ また、中学校の英語免許や体育免許を持った教員が、小学校の授業の一部に参加することでより専門的な指導を実施している状況もあります。
- ・ 一方、デメリットとして捉えて良いのかわかりませんが、環境の変化が無いことが挙げられ、小学校から中学校の 9 年間、同じ場所に通うこととなります。

(参加者 C)

- ・ 私個人的な意見ですが、デメリット部分が同感であり、地域の環境が変わらないことが子供にとって良いのか疑義であり、個人的には反対です。

(参加者 C)

- ・ 学校再編の視点には、教育、地域コミュニティ、コスト（財政部分）の3点があり、それぞれが相容れない部分だと感じます。これから各地域で議論する際にも、それら3点をそれぞれ議論して整理すべきだと思います。
- ・ また、現在の学区を見直すことも考えるべきなのか？

(藤本副課長)

- ・ 学校再編調査検討委員会においても、学区の見直しについて言及されていますので、それらも各地域の議論の中で検討が必要だと考えていますが、現在の学区・地区は、旧村からの流れもあり分割するような議論となるのかは、各地域での意見を聞いていかなければならないと思います。

(参加者 C)

- ・ やはり学区を見直すことは、なかなか難しいとも思いますので、例えば、一定の統廃合がなされた場合には、それぞれスクールバスを運行し、その上で、定められた学校以外への通学許可も柔軟に対応していくことが必要だと思います。なお、その際、子供や保護者の考えで学区外に通わせる場合は、保護者の負担で送迎することが大前提で考えるべきだと思います。

(藤本副課長)

- ・ ご意見ありがとうございます。他地区においては、全ての学区をフリーするような意見も出されており、全ての学区をフリーにしている自治体は、全国で非常に少なく、公共交通網が発達し、子供達が自分たちで通える環境がある大都市での導入が大部分となっています。館山市内に網の目のようにスクールバスを運行させることは、現実的には難しいところであり、子供や保護者の考えで学区外に通わせる場合は、保護者負担であるとの考えも理解できる場所であり、それらを含めて、これからより細部な議論を進めていきたいと考えています。